



## 遠藤 直文 さん

●えんどう・なおふみ 県立平館高校3年。相撲部主将を務める。趣味はゲームと読書。太宰治の「人間失格」が好き。「内向的な性格」と自己分析するが、相撲を取っている時の激しさからは想像できない。尊敬する人は戦国時代の武将、織田信長。好きな言葉は、「心技体」という根っからの相撲人。血液型A型のうお座。西根寺田出身。

## 県

高校総体相撲競技で団体4連覇、個人と体重別の2階級、1

年生個人でも優勝者を出し、圧倒的なまでの強さを見せた県立平館高校相撲部。その相撲部で主将を務めるのが遠藤直文さんだ。

遠藤さんが相撲を始めたのは、小学校1年のとき。2人の

兄が相撲スポーツ少年団に入っていたこともあり、半ば無理やり入団させられたのがきっかけだった。

「スポーツ少年団に入った最初のころは、ほんとに嫌々相撲をやっていましたよ」

そんな相撲にも徐々に面白みを感じるようになり、中学校では相撲部に入学した遠藤

さん。相撲以外のスポーツには、ほとんど興味がわかなかったという。

「自分よりも体格の大きな相手に勝ったときは、ほんとに最高の気分です。中学のころには、もう相撲にハマっていましたね」

練習を毎日続けている。最もつらい練習



## 相撲は体の大きさだけで取るものではないんです そこが相撲の醍醐味であり面白さでもあると自分は思います



の「申し合い稽古」では、多いときで1日50番も相撲を取ることがあるという。この練習量が遠藤さんをはじめとする平館高校相撲部の強さを支えているのだろう。

主将となり、迎えた高校最後の県高校総体。副将として臨んだ団体戦では、順当に勝ち進み優勝。平館高校相撲部の威厳を保つことができた。

そして勝負の個人戦。もちろん優勝を狙っていたが、結果は惜しくも準優勝。決勝戦は、昨年の県新人大会で勝っている相手とだった。

「技を掛けるタイミングが遅れてしまい、後手に回ってしまったんです。いつもどおりに先手を取りながら行けば勝てたかもしれない。高校最後の年だったので、とても悔しかったです」

次は東北高校総体が待っている。昨年の東北新人大会では個人で準優勝だった遠藤さん。そのときの雪辱を果たすべく、こころは優勝を、そしてその上にある全国高校総体を目指している。信じられるのは練習のみと、遠藤さんは今日も申し合い稽古に汗を流す。